

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
食物栄養学科	教授	相良 剛史	博士(水産学)

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ・優れた教育方法の実践例	平成17年4月～平成21年3月	実験科目の開講時間割がおよぼす学習効果への影響について検討した。四国大学短期大学部において理化学系の実験を、週1回開講した場合と連続的に開講した場合の授業内容の理解度の違いを、試験の正答率により考察した結果、連続的に開講した場合の理解度が高い傾向にあった。
・マルチメディア機器を活用した授業方法	平成19年4月～	実験操作等を効率よく教授するために、デモンストレーション用の動画により説明を行った。短時間で沢山の操作を説明することが可能となるため、効率の良い教育に繋がるものと思われた。
・マルチメディア機器を活用した授業方法	平成25年4月～	実験で扱う内容が実社会でどの様に活かされているのか理解してもらうために、工場での製造工程等を動画やパワーポイントを用いて説明した。実際に工場見学等により学ぶほうがより望ましいことと思われるが、限られた時間内での教育には動画を用いることも効果的であると思われた。
・マルチメディア機器を活用した授業方法	令和2年4月～	コロナウイルス蔓延防止対策期間中の授業について、Google classroomを利用したオンデマンドによる遠隔授業を行った。また、対面で行う大半の授業に関してもスライドを用いた授業に移行し、スライド資料をGoogle classroom上で共有した。さらに、課題の提出をGoogle formにより行うことにより、提出物の管理や正誤データの蓄積を行い、学生へのフィードバックに活用している。
・学生の授業外における学習促進のための取り組み	平成24年10月～	実験・実習に関する授業では、より深い内容についての興味や理解を促すために、レポートの提出を課している。個々の学生の程度や興味に応じて自発的な学習が期待できるものと思われる。
(2) 作成した教科書・教材・参考書 ・食品学実験 I・食品加工学実習	平成25年4月～	食品学実験 I および食品加工学実習で用いる実習書を作成した。実習書は実験実習の操作方法や関連事項を記したものであるが、より学生に解りやすい内容に改善する為に、毎年、改定を行っている。
・健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康 食品の加工 改訂第2版	令和4年2月	第8章動物性食品の栄養と加工 B魚介類 を分担執筆した。
(3) 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・実験科目の開講時間割がおよぼす学習効果への影響	平成21年12月	実験科目を週1回の時間割で開講した場合と連続的に開講した場合の理解度の違いを検討し、連続的な開講の方が高い学習成果が得られることを、四国大学紀要自然科学編第29号で発表した。

・短期大学の食品科学分野における実験科目の開講時間割と教育効果	平成22年3月	実験科目において、週1回開講の実験を繰り返して行うよりも、集中講義等により開講した方が教育効果が高いことを、食品科学教育協議会誌6(1)で発表した。
・少人数教育がもたらす栄養士の資質向上効果の検討	平成28年11月	くまもと課題解決プロジェクトへの参加を通じて栄養士の資質向上に関する教育効果の検討を行い、第12回日本給食経営管理学会学術総会で発表した。
・栄養士養成課程における少人数PBLについて	平成30年3月	栄養士の資質向上を目的とした少人数PBLに関する教育効果の検討を行い、食品科学教育協議会誌Vol.9で発表した。

(4)その他教育活動上特記すべき事項		
・公開講座における講師	平成25年9月	第24回尚綱公開講座「食品廃棄物の有効利用を目指して」で講師を務めた。
・第4回夏季家庭科教育研修会講師	平成26年8月	「マヨネーズから学ぶ」をテーマに研修を行った。
・平成27年度短期大学基準協会第三者評価委員	平成27年5月～平成28年3月	評価対象の短期大学を訪問し、教育課程と学生支援を中心に評価を行った。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
「著書」					
動物性食品の栄養と加工 B 魚介類(再掲)	共著	令和4年2月	南江堂 健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康 食品の加工 改訂第2版	編集:太田英明・白土英樹・古庄律 著者:相良剛史ほか21名	170～176
「論文」					
Occurrence of PSP-producing dinoflagellate <i>Alexandrium tamiyavanichii</i> in Bingo-Nada, the central coastal water of the Seto Inland Sea, Hiroshima Prefecture, Japan. (査読付)	共著	平成20年4月	Marine Pollution Bulletin 56(4)	◎Beppu, Rieko; Nojima, Kanako; Tsuruda, Shintaro; Gomez-Delan, Gloria; Barte-Quilantang, Mercy; Taniyama, Shigeto; <u>Sagara, Takefumi</u> ; Nishio, Sachio; Takayama, Haruyoshi; Miyazawa, Keisuke; Asakawa, Manabu.	758～763 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
パリトキシン分析における留意点 (査読無)	共著	平成20年4月	食品衛生学雑誌 第49巻2号	◎相良剛史・西尾幸郎	j-189～j-190
中毒発生海域より分離した <i>Ostreopsis</i> sp. のパリトキシン様物質産生能 (査読無)	単著	平成20年9月	日本水産学会誌 第74巻5号		913～914
Occurrence of the polyamines caldopentamine and homocaldopentamine in axenic cultures of the red tide flagellates <i>Chattonella antiqua</i> and <i>Heterosigma akashiwo</i> (Raphidophyceae) (査読付)	共著	平成21年7月	FEMS Microbiology Letters 298(1)	◎Nishibori N., Niitsu M., Fujihara S., <u>Sagara T.</u> , Nishio S., Imai I.	74～78 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能

トカラ列島中之島産オウギガニ科カニ類の毒性と毒成分 (査読付)	共著	平成21年10月	食品衛生学雑誌 第50巻5号	◎相良剛史・谷山茂人・高谷智裕・西堀尚良・西尾幸郎・野口玉雄・荒川修	237~242
ハコブグ類の喫食による食中毒の実態と同魚類の毒性調査 (査読付)	共著	平成21年10月	食品衛生学雑誌 第50巻5号	◎谷山茂人・相良剛史・西尾幸郎・黒木亮一・浅川学・野口玉雄・山崎脩平・高谷智裕・荒川修	270~277 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
実験科目の開講時間割がおよぼす学習効果への影響(再掲) (査読無)	共著	平成21年12月	四国大学紀要自然科学編 第29号	◎西堀尚良・相良剛史・西尾幸郎・遠藤千鶴	27~32 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Genetic diversity of <i>Gambierdiscus</i> spp. (Gonyaulacales, Dinophyceae) in Japanese coastal areas (査読付)	共著	平成22年3月	Phycological Research 58	◎Sotaro Kuno, Ryoma Kamikawa, Sadaaki Yoshimatsu, Takefumi Sagara, Sachio Nishio and Yoshihiko Sako	44~52 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
短期大学の食品科学分野における実験科目の開講時間割と教育効果(再掲) (査読付)	共著	平成22年3月	食品科学教育協議会会誌 第6巻1号	◎西堀尚良・相良剛史・西尾幸郎・遠藤千鶴	7~11 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
LC-MSIによる下痢性貝毒の検出 (査読付)	共著	平成22年3月	食品科学教育協議会会誌 第6巻1号	◎西堀尚良・西尾幸郎・相良剛史	13~15 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Determination of Polyamines Using Liquid Chromatography-Fast Atom Bombardment Mass Spectrometry and Its Application to Analysis of Free Polyamines in <i>Skeletonema costatum</i> (Bacillariophyceae) (査読付)	共著	平成22年3月	Journal of Association of Food Science Education in Japan 6(1)	◎Nishibori N., Sagara T., Nishio S., Imai I.	29~32 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
瀬戸内海播磨灘で発生した有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamiyavanichii</i> と毒化ムラサキイガイの毒性と毒成分 (査読付)	共著	平成22年9月	食品衛生学雑誌 第51巻4号	◎相良剛史・谷山茂人・吉松定昭・高谷智裕・橋本多美子・西堀尚良・西尾幸郎・荒川修	170~177
焼酎粕の現状と有効利用について (査読無)	共著	平成22年10月	調理食品と技術16(4)	◎橋本多美子, 相良剛史, 西尾幸郎	164~171 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Lotus root (<i>Nelumbo nucifera</i> rhizome) extract causes protective effect against iron-induced toxic damage to C6 glioma cells. (査読付)	共著	平成24年6月	Phytopharmacology 2012, 2(2)	◎Takefumi Sagara, Naoyoshi Nishibori, Manami Sawaguchi, Takara Hiroi, Mari Itoh, Song Her, Kyoji Morita	179~189

Protective effect of <i>Undaria pinnatifida</i> sporophyll extract on iron induced cytotoxicity and oxidative stress in PC12 neuronal cells. (査読付)	共著	平成24年6月	Phytopharmacology 2012, 2(2)	©Naoyoshi Nishibori, <u>Takefumi Sagara</u> , Takara Hiroi, Manami Sawaguchi, Mari Itoh, Song Her, Kyoji Morita	271~284 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Inhibitory effects of aqueous extract prepared from joint part of lotus root on α -amylase and α -glucosidase activities (査読付)	共著	平成24年9月	Phytopharmacology 2012, 3(1)	©Naoyoshi Nishibori, Manami Sawaguchi, Takara Hiroi, <u>Takefumi Sagara</u> , Mari Itoh, Song Her, Mi-Sook Lee, Kyoji Morita.	1~11 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Extract of Fermented Brown Rice Induces Apoptosis of Human Colorectal Tumor Cells by Activating Mitochondrial Pathway. (査読付)	共著	平成24年11月	Phytotherapy Research 2012, 26(11)	©Mari Itoh, Naoyoshi Nishibori, <u>Takefumi Sagara</u> , Yukiko Horie, Aya Motojima, Kyoji Morita.	1661~1666 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Inhibition of angiotensin I-converting enzyme (ACE-I) by aqueous extracts prepared from edible and non-edible parts of lotus root. (査読付)	共著	平成24年12月	Phytopharmacology 2012, 3(2)	©Naoyoshi Nishibori, <u>Takefumi Sagara</u> , Takara Hiroi, Reina Kishibuchi, Manami Sawaguchi, Mari Itoh, Kyoji Morita, Song Her.	309~318 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Trichostatin A Enhances Glutamate Transporter GLT-1 mRNA Levels in C6 Glioma Cells via Neurosteroid-Mediated Cell Differentiation. (査読付)	共著	平成25年1月	J Mol Neurosci.49(1)	©Itoh M, Hiroi T, Nishibori N, <u>Sagara I</u> , Her S, Lee MS, Morita K.	21~27 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Palytoxin causes nonoxidative necrotic damage to PC12 cells in culture. (査読付)	共著	平成25年2月	J Appl Toxicol.2013, 33(2)	© <u>Sagara I</u> , Nishibori N, Itoh M, Morita K, Her S.	120~124
沖縄県沿岸に分布する腐肉食性および肉食性巻貝の毒性と毒成分 (査読付)	共著	平成25年2月	食品衛生学雑誌 第54巻1号	©谷山茂人・高谷智裕・反町太樹・相良剛史・久保弘文・大城直雅・小野要・肖寧・橋勝康・荒川修	49~55 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Angiotensin-I converting enzyme (ACE) inhibitory activity of aqueous extract prepared from fermented brown rice: A potential functional food for management of hypertension (査読付)	共著	平成25年6月	Phytopharmacology 2013, 4(2)	©Naoyoshi Nishibori, Reina Kishibuchi, <u>Takefumi Sagara</u> , Mari Itoh, Yukiko Horie, Kyoji Morita	237-245 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Contribution of non-peptide substances to inhibition of angiotensin I converting enzyme (ACE) by aqueous extract of brown seaweed <i>Undaria pinnatifida</i> (査読付)	共著	平成25年9月	Phytopharmacology 2013, 4(3)	©Naoyoshi Nishibori, Hironobu Tanaka, Reina Kishibuchi, <u>Takefumi Sagara</u> , Kazuyuki Hattori, Kyoji Morita	638-647 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能

Non-protein components of <i>Arthrospira (Spirulina) platensis</i> protect PC12 cells against iron-evoked neurotoxic injury (査読付)	共著	平成27年1月	Journal of Applied Phycology 2015, 27(2)	©Sagara T, Nishibori N, Kishibuchi R, Itoh M, Morita K.	849-855
南西諸島におけるオウギガニ科カニ類の毒性と毒成分 (査読付)	共著	平成29年3月	食品科学教育協議会会誌 第8巻1号	◎相良剛史・谷山茂人・江戸 梢・西堀尚良・橋本多美子・高谷智裕・荒川修・西尾幸郎	1-9
栄養士養成課程における少人数PBLについて (再掲) (査読付)	共著	平成30年3月	食品科学教育協議会会誌 第9巻1号	◎本田順子・河村諒・岡村成紗・相良剛史	1-10 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Putative effect of <i>Spirulina</i> extract on enzyme activities participated in lipid and carbohydrate digestion processes (査読付)	共著	令和元年6月	Journal of Dietary Supplements, 2019, 16(5)	©Kishibuchi R, Sagara T, Nishibori N, Morita K.	521-529 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
ワカメ加工品に含まれるフコキサンチンの定量 (査読付)	共著	令和2年3月	食品科学教育協議会会誌 第11巻1号	◎相良剛史・高津廣美・西堀尚良	21-25
Production and evaluation of the authentic milk bread using a lactose-utilizing yeast, <i>Kluyveromyces marxianus</i> (査読付)	共著	令和2年3月	Current Topics in Biotechnology, 2020,11	©Aya Shibata, Kaori Harata, Yuko Moriguchi, Risako Kanegawa, Ayaka Nagahira, Misaki Shigematsu, Yuri Takamura, Haruno Watanabe, Takefumi Sagara, Harishkumar Madhyastha and Hidehiko Kikuchi	31-36 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Possibility for nutritional improvement of the "authentic milk" by increasing the amount of milk added (査読付)	共著	令和3年3月	Journal of Association of Food Science Education in Japan, 2021, 12	©Aya Shibata, Sayaka Ichihara, Miwa Kubota, Aimi Sakata, Ayaka Shibata, Yuko Moriguchi, Kaori Harata, Tekefumi Sagara, Hidehiko Kikuchi	25-30 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Identification of nicotianamine as potential inhibitor of angiotensin I converting enzyme in aqueous extract of Okara dry powders (査読付)	共著	令和3年6月	Journal of Food and Nutrition Research, 2021, 60(2)	©Naoyoshi Nishibori, Takefumi Sagara, Kyoji Morita	161-167 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
わかめ乾製品の添加が製パン性に及ぼす影響について (査読付)	共著	令和4年3月	食品科学教育協議会会誌 第13巻1号	◎相良剛史, 森口裕子, 吉田茉夕, 原田香, 西堀尚良, 橋本多美子	31-38 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能

Potential role of green tea amino acid L-theanine in the activation of innate immune response by enhancing expression of cytochrome b558 responsible for the reactive oxygen species-generating ability of leukocytes (査読付)	共著	令和4年6月	Microbiology and immunology 66(6)	©Hidehiko Kikuchi, Kaori Harata, Sumiko Akiyoshi, <u>Takefumi Sagara</u> , Harishkumar Madhyastha, Futoshi Kuribayashi	342-349 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Bifunctional activity of tangeretin (5,6,7,8,4'-pentamethoxyflavone) in suppression of cell growth and gene expression of the superoxide-generating system-related proteins in U937 cells (査読付)	共著	令和4年12月	Fundamental Toxicological Sciences, 2022, 9(5)	©Hidehiko Kikuchi, Kaori Harata, Sumiko Akiyoshi, <u>Takefumi Sagara</u> , Harishkumar Madhyastha, Hitomi Mimuro, Futoshi Kuribayashi	151-157 共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
ほか 査読付 2報 査読無 12報					
「その他」					
中毒発生海域より分離した <i>Ostreopsis</i> sp. のパリトキシン様物質産生能	単独	平成20年3月	平成20年度日本水産学会春季大会ミニシンポジウム (於東海大学海洋学部)		
西日本を中心とした有毒渦鞭毛藻 <i>Gambierdiscus</i> 属および <i>Ostreopsis</i> 属の毒産性能と有毒成分	共同	平成20年3月	平成20年度日本水産学会春季大会 (於東海大学海洋学部)	相良剛史・西尾幸郎・西堀尚良・橋本多美子・吉松定昭・浅川 学・谷山茂人・高谷智裕・荒川修	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
<i>Skeletonema costatum</i> の増殖に伴う細胞内ポリアミン含量の変化	共同	平成20年3月	平成20年度日本水産学会春季大会 (於東海大学海洋学部)	西堀尚良・相良剛史・西尾幸郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Possible impacts of polyamines on the growth of HAB-causing microalgae.	共同	平成20年10月	5th World Fisheries Congress (Yokohama, Japan)	Naoyoshi NISHIBORI, <u>Takefumi SAGARA</u> , Sachio NISHIO, Mineo YAMAGUCHI, Keizo NAGASAKI, Yuji TOMARU, Ichiro IMAI	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Occurrence of PSP-producing dinoflagellate <i>Alexandrium tamiyavanichii</i> in Bingo-Nada, the eastern coastal water of Hiroshima Prefecture, Japan	共同	平成20年10月	5th World Fisheries Congress (Yokohama, Japan)	Asakawa, Manabu; Beppu, Rieko; Tsuruda, Shintaro; Takeuchi, Eriko; Gomez-Delan, Gloria; <u>Sagara, Takefumi</u> ; Nishio, Sachio; Miyazawa, Keisuke.	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Toxin Profiles of Xanthid Crabs in the Southwest Islands of Japan	共同	平成20年10月	Joint International Symposium on Marine Science and Technology (Cheju, Korea)	<u>Takefumi Sagara</u> , Shigeto aniyama, Tomohiro Takatani, Naoyoshi Nishibori, Sachio Nishio, and Osamu Arakawa	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能

PSP毒化アサリ投与によるアカニシの毒化試験	共同	平成21年3月	平成21年度日本水産学会 春季大会 (於東京海洋大学)	竹内絵梨子・藤田雄介・ 鶴田慎太郎・谷山茂人・ 相良剛史・西尾幸郎・伊 藤克敏・浅川 学	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
HAB原因藻類のポリアミン合成	共同	平成21年3月	平成21年度日本水産学会 春季大会 (於東京海洋大学)	西堀尚良・相良剛史・西 尾幸郎	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
Detection of Okadaic acid from <i>Coolia monotis</i>	共同	平成21年8月	9th International Phycological Congress (National Olympics Memorial Center)	Naoyoshi Nishibori, Yohei Matuyama, Takefumi Sagara, Sachio Nishio, Ichiro Imai	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
四国沿岸域で採取された <i>Prorocentrum lima</i> のオカダ酸産生	共同	平成21年10月	2009年度日本ベントス学 会・日本プランクトン学会 合同大会 (於北海道大学水産学部)	西堀尚良・吉松定明・相 良剛史・西尾幸郎・今井 一郎	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
フィリピンカモテス島産スベスマンジュウガニの毒性	共同	平成22年4月	平成22年度日本水産学会 春季大会 (於日本大学生物資源学 部)	石本泰之・藤田雄介・ Gloria Delan・下村通誉・ 安井かおり・志田保夫・ 相良剛史・西尾幸郎・浅 川 学	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
鳴門産茎ワカメの有効利用について	共同	平成22年4月	第17回食品科学教育協議 会研究会 (於大阪弥生会館)	森風花・相良剛史	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
先島諸島におけるオウギガニ科有毒ガニの毒性と毒組成	共同	平成22年9月	第100回日本食品衛生学 会学術講演会 (於熊本県立大学)	相良剛史・谷山茂人・高 谷智裕・宮内のどか・橋 本多美子・西堀尚良・西 尾幸郎・荒川 修	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
軟体動物ウミフクロウからの麻痺毒の検出	共同	平成22年9月	第100回日本食品衛生学 会学術講演会 (於熊本県立大学)	相良剛史・谷山茂人・西 堀尚良・橋本多美子・高 谷智裕・浅川 学・荒川 修・西尾幸郎	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
大阪湾にて <i>Alexandrium tamarense</i> により毒化した二枚貝とフジツボの毒性	共同	平成22年9月	第100回日本食品衛生学 会学術講演会 (於熊本県立大学)	西尾幸郎・相良剛史・西 堀尚良・山本圭吾・岡部 愛・橋本多美子・高谷智 裕・谷山茂人・荒川修	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
Toxicity of <i>Palythoa tuberculosa</i> inhabiting the Nansei Islands of Japan	共同	平成22年10月	The 11th Joint International Symposium between Pukyong National University and Nagasaki University (Nagasaki, Japan)	Shuhei Yamasaki, Shigeto Taniyama, Gregory N. Nishihara, Katsuyasu Tachibana, James Davis Reimer, Takefumi Sagara, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
Toxicity of gastropods from the coastal water of Okinawa Prefecture, Japan	共同	平成22年10月	The 11th Joint International Symposium between Pukyong National University and Nagasaki University (Nagasaki, Japan)	Taiki Sorimachi, Shigeto Taniyama, Katsuyasu Tachibana, Hirofumi Kubo, Naomasa Oshiro, Takefumi Sagara, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能
Toxicity and toxin profile of <i>Palythoa tuberculosa</i> inhabiting the Nansei Islands of Japan	共同	平成22年11月	Joint International Symposium on Marine Science and Technology (Cheju, Korea)	Shuhei Yamasaki, Shigeto Taniyama, Gregory N. Nishihara, Katsuyasu Tachibana, James Davis Reimer, Takefumi Sagara, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa	共同研究につ き本人担当部 分の抽出不可 能

Toxicity and toxin profile of gastropods inhabiting Okinawa Prefecture, Japan	共同	平成22年11月	Joint International Symposium on Marine Science and Technology (Cheju, Korea)	Taiki Sorimachi, Shigeto Taniyama, Katsuyasu Tachibana, Hirofumi Kubo, Naomasa Oshiro, Takefumi Sagara, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
アルテミア飼育水が <i>Alexandrium catenella</i> の産生する毒量および毒組成に及ぼす影響	共同	平成23年3月	平成23年度日本水産学会春季大会 (於東京海洋大学)	仲田和之・小林潤・相良剛史・西尾幸郎・斎藤俊郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
アルテミア飼育水の添加が <i>Alexandrium catenella</i> の麻痺性貝毒産生に及ぼす影響	共同	平成23年5月	第14回マリンバイオテクノロジー学会大会 (於静岡コンベンションアーツセンター)	仲田和之・小林潤・相良剛史・西尾幸郎・斎藤俊郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
海洋性自然毒パルトキシンのPC12細胞に対する作用	共同	平成23年9月	平成23年度日本水産学会秋季大会 (於長崎大学)	相良剛史・西堀尚良・廣井 貴・澤口茉奈美・伊藤麻里・森田恭二・谷山茂人・荒川 修	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
アサリ飼育水が <i>Alexandrium catenella</i> の産生する毒量および毒組成に及ぼす影響	共同	平成23年9月	平成23年度日本水産学会秋季大会 (於長崎大学)	木暮匡祥・相良剛史・西尾幸郎・斎藤俊郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
西部日本沿岸域から分離された微細藻類のDSP産生	共同	平成23年9月	平成23年度日本水産学会秋季大会 (於長崎大学)	西堀尚良・相良剛史・西尾幸郎・吉松定昭・石川輝・今井一郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
PTX-resistibility of the boxfish <i>Ostracion immaculatus</i> and pufferfish <i>Takifugu rubripes</i>	共同	平成23年10月	The 12th Joint International Symposium between Pukyong National University and Nagasaki University (Pukyong, Korea)	Ken-Lin Huang, Shuhei Yamasaki, Gregory N. Nishihara, Takefumi Sagara, Shigeto Taniyama, Katsuyasu Tachibana, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa.	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
Possible connection between TSA-induced glial cell differentiation and glutamate transporter gene expression	共同	平成23年11月	Neuroscience 2011 (Washington, DC, USA)	Morita, K. Itoh, M. Nishibori, N. Sagara, T. and Her, S.	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
アルテミア飼育水が <i>Alexandrium catenella</i> の産生する麻痺性貝毒毒量および毒組成に及ぼす影響	共同	平成24年3月	平成24年度日本水産学会春季大会 (於東京海洋大学)	木暮匡祥・相良剛史・西尾幸郎・斎藤俊郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
レンコン抽出物のアンジオテンシン I 変換酵素阻害作用について	共同	平成24年6月	日本農芸化学会中四国支部第33回講演会 (於愛媛大学)	相良剛史・西堀尚良・廣井 貴・澤口茉奈美・森田恭二	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
レンコン非食用部分(節レンコン)冷水抽出液の α -アミラーゼおよび α -グルコシダーゼ阻害作用について	共同	平成24年6月	第121回日本薬理学会近畿部会 (於徳島県郷土文化会館)	西堀尚良・澤口茉奈美・廣井 貴・相良剛史・伊藤麻里・森田恭二	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能

Aqueous extract of <i>Spirulina platensis</i> induces elevation of BDNF mRNA levels through HO-1 expression in C6 glioma cells.	共同	平成24年10月	Neuroscience 2012 (Washington, DC, USA)	Morita, K., Hiroi, T., Sawaguchi, M., Kishibuchi, R., Itoh, M., Nishibori, N., <u>Sagara, T.</u> , Her, S. and Lee, M.-S.	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
PSPで毒化したカキの加熱調理操作における除毒効果	共同	平成25年6月	日本食生活学会第46回大会プログラム(於淑徳大学)	橋本多美子・相良剛史・西尾幸郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
加熱調理による麻痺性貝毒含有カキの除毒とエキス成分の変化	共同	平成26年11月	日本食生活学会第49回大会プログラム(於ITビジネスプラザ武蔵)	江戸梢・相良剛史・西尾幸郎	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
大阪湾に発生した有毒渦鞭毛藻Alexandrium tamarenseによる食用二枚貝の毒化について	共同	平成26年11月	日本食生活学会第49回大会プログラム(於ITビジネスプラザ武蔵)	江戸梢・西尾幸郎・橋本多美子・吉田恵・相良剛史	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
少人数教育がもたらす栄養士の資質向上効果の検討(再掲)	共同	平成28年11月	第12回日本給食経営管理学会学術総会(於大手前大学)	岡村成紗・本田順子・相良剛史	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
節レンコンパウダーの有用性について	共同	平成30年8月	日本調理科学会平成30年度大会(於武庫川女子大学)	相良剛史・原田香・橋本多美子	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
節レンコン添加パンの製パン性	共同	平成30年8月	日本調理科学会平成30年度大会(於武庫川女子大学)	原田香・相良剛史・橋本多美子	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
ワカメ(<i>Undaria pinnatifida</i>)に含まれる食品成分の機能性について	共同	平成31年3月	日本水産学会平成31年度大会(於東京海洋大学)	相良剛史・森口裕子・原田香・當房浩一・西堀尚良	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
木綿豆腐製造過程で排出されるイソフラボンの性状	共同	令和元年5月	日本家政学会第72回大会(於四国大学)	相良剛史・原田香・西堀尚良	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
わかめ乾燥品が製パンに与える影響について	共同	令和3年5月	日本家政学会第73回大会(於神戸女子大学)	相良剛史・森口裕子・吉田茉夕・原田香・橋本多美子	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
米糠粉末添加が製パンに与える影響について	共同	令和4年9月	日本調理科学会2022年度大会(於兵庫県立大学)	相良剛史・森口裕子・本田順子・原田香・橋本多美子・西堀尚良	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
乳糖資化性酵母を用いた真正牛乳パンの製造と評価	共同	令和5年6月	日本食品保蔵科学会第72回大会(於熊本県立大学)	原田香・森口裕子・相良剛史・菊池秀彦	共同研究につき本人担当部分の抽出不可能
ほか 国際学会等発表 8件 国内学会等発表 28件					

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

「外部資金」

平成17年4月～平成19年3月

平成17、18年度厚生労働科学研究費補助金 主任研究者
「魚介類に含まれる食中毒原因物質の分析法に関する研究」

平成19年4月～平成21年3月	平成19、20年度厚生労働科学研究費補助金 主任研究者 「貝毒を含む食品の安全性確保に関する研究」
平成24年4月～平成27年3月	平成24年度科学研究費補助事業 若手研究(B) 研究代表者 「食用魚介類を対象とした新規パリトキシン評価法の確立」
平成24年4月～平成27年3月	平成24年度科学研究費補助事業 挑戦的萌芽研究 研究分担者 「麻ひ性貝毒含有二枚貝の嗜好性を高める除毒調理法の確立」
平成29年4月～令和4年3月予定	平成29年度科学研究費補助事業 若手研究(B) 研究代表者 「低・未利用水産資源の機能性に及ぼす調理加工操作の影響」
平成31年4月～令和6年3月予定	平成31年度科学研究費補助事業 基盤研究(C) 研究分担者 「高齢者のQOLを高める加工食品の創出」
「学会等委員」	
平成17年4月～	マリトキシン研究会ホームページ企画運営担当(現在に至る)
令和3年5月～令和4年11月	第118回日本食品衛生学会学術講演会実行委員
令和5年2月～令和5年6月	日本食品保蔵科学会 第72回(熊本)大会実行委員会委員
「社会貢献」	
平成25年11月～令和4年11月	第5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 14回水産関連事業を営む方のための産学官交流・個別相談会 アドバイザー
平成27年5月～平成28年3月	平成27年度短期大学基準協会第三者評価委員(再掲)
平成27年9月～令和4年9月	第28, 29, 30, 31, 32, 33, 35回食物栄養学科夏季研修会講師
令和元年11月	熊本県栄養士会 令和元年度宇城地域事業部 第2回研修会講師